



第百号

柳井市白壁の町並みを守る会
事務局(皿田治)
Tel. 090-1012-4204

◆◆◆◆◆
◆◆◆◆◆
◆◆◆◆◆
◆◆◆◆◆
◆◆◆◆◆
◆◆◆◆◆
◆◆◆◆◆
◆◆◆◆◆
◆◆◆◆◆
◆◆◆◆◆
◆◆◆◆◆
◆◆◆◆◆

柳井市白壁の町並みを守る会

河本 昌記

暑い、そして暑い夏が今年もやってきた。今年は例年以上に猛暑で日中での外出は危険と感じるほどの高温だ。それでも柳井にとっては外せない8月13日はやってくるのだ。



賑わいを見せる白壁通り

今年も金魚ちようちん祭りにおいて白壁を守る会では学生ボランティアさんの協力のもと恒例のかき氷・ドリンクを販売した。

昨年より飲み物のバリエーションを少なくし、Tシャツやカルタといったグッズ販売をやめて人気のかき氷メインで本祭へと挑むこととなる。

まだ明るい17時くらいから店頭で販売物を準備し店開きだ。この時間帯から既に人通りもあり飲み物を求める人もちらほら、いい出だしだ。

17時半になると学生ボランティアの高校生男女各3名登場。毎回思うのだが彼ら、彼女らの活躍なしではこの白壁屋台は成り立つことはないだろう。

薄暗くなるにつれ人通りも増え、かき氷を待つ行列ができ始める。助っ人の高校生も店先で大きな声を出して集客をしていて。氷づくりもすぐに慣れて一心不乱に氷を削り並んだお客さんの列を手際よく捌いてくれている。

みんな汗だくになりながら20時半にはドリンクは全て完売。かき氷も用意した五百杯分のカップが全てなくなり無事に店じまいとなった。

頑張ってくれた高校生にお礼の終礼をして、最後の後片付けをすると、体はぐったりと疲れているものの心地よい達成感があった。

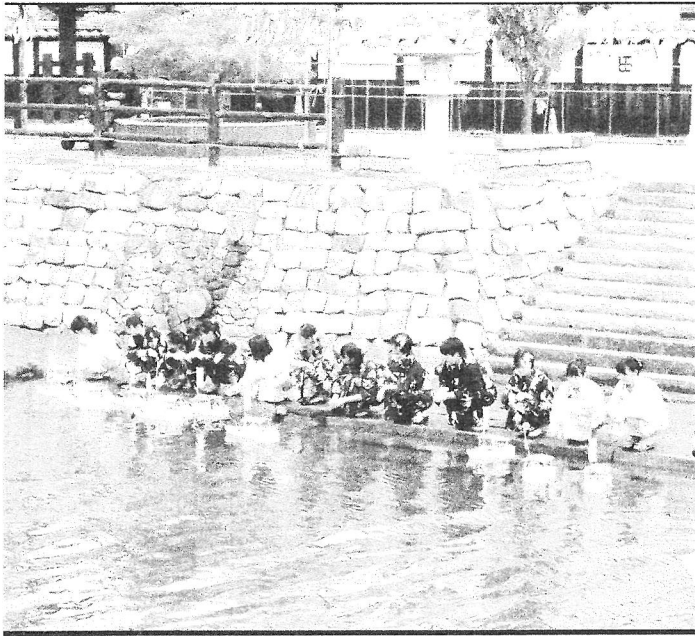
今年も無事に終わったという安堵感と共に、来年はどんな事をしようかなんなど思いを巡らせた。来年に向けて新たな創造意欲が湧く一日となった。



大活躍の学生ボランティア

第二十四回八朔の船流し実施

八月二十日町並み資料館に色鮮やかな浴衣姿の乙女たちが、次々と集まって来た。柳井中学の女子生徒十二人。いつ見てもいいですね。大正時代末期まで古市の豪商佐川醬油店にて続いていた行事を当会で復活して今年で二十四回目を迎える。改めて何故柳井の地において船流しが始まったのか由来を尋ねてみたい。



柳井市郷談会元会長中村正樹氏(故人)が平成十二年に作成された資料によるとその起源は鎌倉時代以前に遡るようだ。以下『柳井町勢原簿』より抜粋する。原文は漢字とカタカナであるが読みづらいので漢字とひらかなに変

『八朔の船流し 八月朔日八朔の船流しは大きさ一尺四五寸位の家形船を作り色紙などにて紙人形を乗せ団子を積みて女兒の盛装せるが旧曆八月夕刻満潮時に柳井川の下流に浮べるの習風久しく行われ一時は中々盛にして船の飾り人形の着物などに金を惜まず作れる事もありしが近年殆んど其影を止め只家々に団子のみを作る様になれり雖の



の由緒は文治(後鳥羽一一八五〜一一八九)の頃平家西国に漂泊の砌り船を柳井につけたる折しも八朔なりにしに船中の公達女など雛遊をなしけるを土地の人々見習いしより始りしなりと伝えらる』



大昔に始まった行事だったとは驚きですね。源平の戦いが瀬戸内で展開されていたなかったらこんな行事は

始まっていなかったかも知れません。継続は力なり。これからも是非続けて行きたいものです。

今年には心配された空模様も天気にも恵まれ潮位の高さも予測値ぴったりで無事終了することが出来ました。ボランティアの皆さん、着付けを手伝っていただいた先生やご協力いただいた関係者の皆さん、取材に駆けつけていただいた報道機関の皆さんに心より感謝申し上げます。

(写真・毎日写友会 柳井支部 高津貴子さん)

ふわく&ワクワク

くらいに生きる AREA DENKEN 871

昭和50年の文化財保護法の改正に

よって伝統的建造物群保存地区の制度が発足し、城下町、宿場町、門前町など全国各地に残る歴史的な集落・町並みの保存が図られるようになりました。

この伝建地区に柳井市白壁の町並みが選定され今年で40周年を迎えることとなりました。

これを記念して、これまでの整備状況やエピソードを振り返り、様々な記念事業を開催します。

1. 記念講演会

・日時：令和6年10月20日(日)

・会場：みどりが丘図書館

・13:30〜14:15 講演

文化庁文化財第2課伝統的建造物群部門

主任文化財調査官 梅津章子 様

・14:30〜15:10 講演

柳井市伝統的建造物群保存地区

保存審議会副会長 三吉勝也 様

※エリアデンケン871、40年よもやま話

・15:20〜15:50 講演

やないろ 代表 中本英宏 会員

※今後の白壁の町並みの可能性について考える

・記念展示 「水庭暮らし」制作 福屋 亮平 様

2. 柳井市白壁の町並み重伝建地区

選定40周年記念スタンプラリー

・日時：令和6年10月20日(日)〜11月4日(月)

・場所：柳井市古市金屋伝伝統的建造物保存地区

周辺参加事業所

・参加事業所にて来店につき1ポイント、

参加事業所にて商品購入時+2ポイント

・10ポイントのスタンプ押印で記念パスポート進呈 (先着80名様)

3. 柳井市白壁の町並み DENKEN パネル展示

・日時：令和6年10月20日(日)〜11月30日(土)

・場所：柳井市町並み資料館 柳井市柳井津442

・営業時間：10:00〜17:00 休館日 月・木曜日

主催：柳井市白壁の町並みを守る会

共催：柳井市教育委員会

柳井の地図絵図

岸田稔明

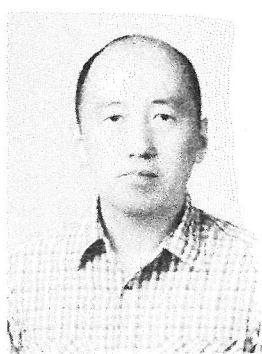
第四十三回 柳井町上水道敷設一件

附属図面 その一(山口県文書館蔵)

前回は、難航を極めた柳井町の上水道敷設が、柳井町と新庄村とで契約が締結されたことにより進展したことを取り上げた。

昭和十一(一九三六)年七月十七日に敷設が認可され、同年十二月二十日に起工した。山口県文書館蔵の「柳井町上水道敷設一件」の「柳井町水道計画ノ概要」によると、給水区域は柳井町一円、給水人口は第一期計画で一万五千人、第二期計画で二万人とし、これを基に貯水池の容量、導水管と浄水場の規模を決定した。

貯水池は、黒杭川上流に築造することとした。黒杭川上流ダムの上流にある「黒杭水源池」で、建設当時の計画図が、今回紹介する「黒杭川水源池平面図」である。縮尺千分の一で、築造予定の堰堤と、付替前後の県道等が描かれている。



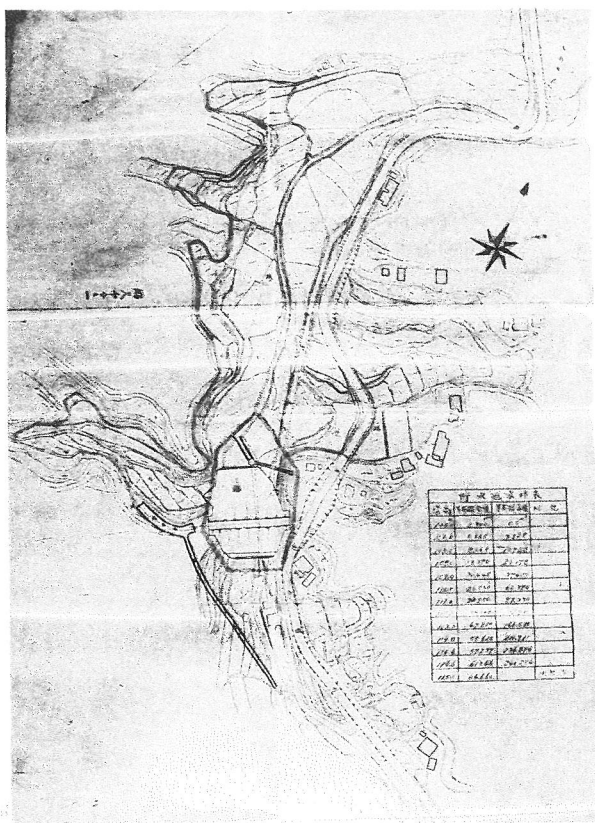
満水面の標高は百十四・四〇メートル

トル、面積が五万九千二百三十九平方メートル、有効水深は九・四メートル、有効貯水量は二十三万四千八百八十四立方メートルとなっている。建設前は数軒の家屋が建っていた。

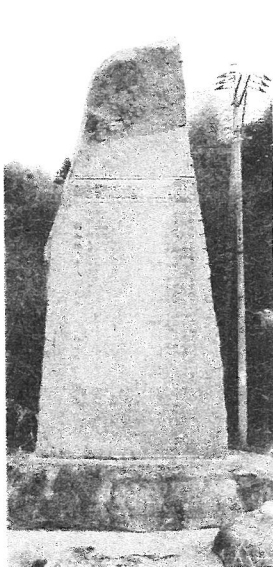
黒杭水源池の堤のそばに、「柳井町上水道完成記念碑」が、戦時中の昭和十八年に建立された。表面には柳井町の上水道布設の経緯が、裏面には上水道布設関係者の芳名四十九人が刻まれている。上水道敷設時の経緯や苦勞が表面に刻まれているので、その全文をここに示す。

抑柳井町ハ古来ヨリ商業地トシテ其名近郷ニ聞ヘ陸海運輸ノ便備ハリ年ト共ニ戸口増加シ諸機関相整ヒ町勢ノ進展時々刻々ニ進ミシト雖モ清浄ナル用水ヲ得ル途ナク市街

地ノ住民常ニ飲料水ニ不便ヲ感シツヽアルノミナラス衛生上或ハ防火上亦深ク遺憾ニ堪ヘザリシ所ニシテ町民ノ上水道布設ヲ要望シ来レルコト切ナルモノアリ是レ本町ノ瑕瑾トシテ隔靴ノ歎ヲ懐キシ所以ナリ此ヲ以テ遂ニ昭和七年調査設計ヲ開始シ爾来幾多ノ曲折ヲ経布設断行ノ好機會ヲ捉ヘ萬難ヲ排シテ之ガ水



【黒杭水源池平面図(柳井町上水道敷設一件附属図面)(山口県文書館蔵)】※原図は青地に白線だが、便宜上反転させた。



【柳井町上水道完成記念碑】

源池ヲ此處ニ定メ昭和拾壹年拾貳月貳拾日起工シ四ヶ年ノ星霜ヲ積ミ幾多ノ難苦ト巨大ノ物資トヲ費シ總工事費金五拾參萬八千四拾七圓ヲ投シ昭和拾四年八月竣功セリ今ヤ給水極メテ豊ニシテ肆ニ清泉ヲ飲ミ浄水ニ浴シ而シテ又不時ノ火災ニ惨害未ダ酷シカラザルニ之ヲ防止シ得ベク是レ本町ノ繁榮ト町民ノ幸福増進ニ資スル所蓋シ尠ナラザルベシ茲ニ至難ナリシ本事業完成ニ関係深カリシ諸氏ノ芳名ヲ刻ミ其ノ努力ヲ永遠ニ感謝記念セントシテ此ノ碑ヲ建ツルモノナリ

昭和拾八年八月壹日 柳井町長 國森重衛

商都柳井の歴史 その廿四

松島 幸夫

柳井津商人の心(九)

汗まみれ山頭火への愛情

「むろやの園」の小田家には「また旅人になるあたらしいタオルいちまい」の短冊があります。自由律俳句の巨頭である山頭火が柳井津にやって来て詠んだ際の直筆です。また「むろやの園」の奥庭には、その句を刻んだ石碑が建てられています。

山頭火は皆さんご存知のとおり、仏門修行を志しますが、酒におぼれては自己嫌悪を繰り返した人物です。古びた黒の僧衣を着て托鉢して歩きましたが、わずかな施しのほとんどが酒代に変わりました。僧衣は汗にまみれ埃にまみれていました。

そんな汚れた身なりの山頭火が「柳ちるいそいであてもない旅へ」の句を詠んで、昭和14年9月27日に山口湯田の風来居を後にして、漂泊の旅に出ました。金はなく、他人の厚情に頼っての旅です。



「柳ちるものと
の乞食になつて歩く」と詠っています。翌二十八日、山頭火は

疲れた身体を引きずりながら夕日に背中を押されて、柳井津の藤田文友の家に向き着きます。「お父さん。汚い人が店に入って腰をかけたよ」と息子が言うので文友が出てみると、疲れきつた山頭火がうつむいて座っています。砂ホコリをはらってやり、姫田湯(銭湯)に案内して、汗を流させました。文友宅に戻るや、膳がそろえられています。豆腐をつまみながら杯を重ね、夜遅くまで二人は俳句談義に花を咲かせました。

山頭火は「涸れて汚い満潮の家鴨よろこぶ」の句を文友宅で詠んでいます。情景がありありと浮かんできます。当時、柳井川の左岸には、川に架け出しの家が並んでいました。文友宅もそのうちの一軒でした。柳井川には海水が出たり入ったりで、干潮時には川底が見えて汚いのですが、満潮時には水面が美しく、潮風が爽やかでした。潮の香に包まれた涼しい部屋で杯を重ねたのです。最高の気分でした。鴨も喜んでいよう、水面に戯れていました。

翌朝、山頭火は新聞紙の上にある米を、一粒一粒つまんで並べていました。昨日托鉢でいただいた米を入れたズタ袋に水がかかったので、新聞紙の上で米粒を乾かしたのです。酔いに任せて花瓶をひっくりかえしたか、それともネズミが花瓶を倒したかは定かではありません。いずれにしろ山頭火の子どもじみた姿は滑稽です。

なにはともあれ、文友の言葉に誘われて、暖かい朝飯にありつくことができました。朝食を済ませて玄関に向かうと、文友から新しいタオルを一枚渡されます。炎天下を歩くことを考えての気遣いでした。山頭火は句友の温情に頭を下げます。婦人からは弁当を渡さ

れました。後日、山頭火は短冊を送っています。文友には「また旅人になるあたらしいタオルいちまい」の句を贈り、婦人には「海をまえにおこころづくしのおべんたう開きます」の句を贈っています。神代海岸で弁当を食べたのです。

文友が買ってくれた切符で列車に乗りましたが、「海見れば波音ききたくちよいと下車する」の句とともに大畠駅で降りて、浜辺を歩いて岩国に向かいました。神代海岸の松の樹下で弁当を開き、夫人の顔を思い浮かべながら味わいました。弁当には満足したものの、午後はきつい歩きとなりました。「秋草もわたくしもバスのほこりだらけで」の句を詠んでいます。

ところで、山頭火と文友が酒を煽りながら文学論を交わした藤田宅は、銀天街の西端にありました。「あたらしいタオル」の句碑が立っているむろやの南隣です。藤田保氏(文友の息子)・藤田誠二氏(文友の甥)・小田善一郎氏(藤田宅の地主で「むろやの園」館長)・中村正樹氏らの尽力で句碑が建てられました。

「たった一枚の新しいタオル」なのですが、そこには文学に親しんだ柳井の人たちの優しい心情が凝縮しているように感じられます



山頭火直筆「また旅人になる・・・」

資料館便り

『歴史の息吹を感じる白壁の町並み』

泉 裕子

今年の二月から、柳井市町並み資料館におります泉です。大先輩の山近さんとともに柳井市観光ボランティア活動をしており、その活動が昨年十年となりました。昨年の秋、柳井市観光協会から表彰していただきましたが、この十年間の活動が、今、自分の人生の役に立っていることを感じています。観光ボランティアを始めた頃は、まさかこのような形になるとは思ってもみなかったことです。また、むろやの園でもお世話になっていますが、この二か所でお勤めをする中で、気づいたことが二つあります。

一つ目は、これまでは外側からしか見えていなかったものを内側から見る事ができるようになり、内側にあるものの背景をより知りたいと思うようになったことです。柳井市町並み資料館は、当初、

周防銀行でした。その取締役であった、むろやの園の小田家第七代当主小田伴輔氏のご先祖は、織田信長の家老であり、小田家は元々の姓は織田であったこと、本能寺の変の後、柳井へ移り住んだこと等を知り、YouTubeでその当時の歴史を学ぶなど、子どもの頃は全く興味のなかった日本の歴史について、学び直しの機会となつています。知つてみると、日本の歴史は奥深く、今ではもう真実は分からないことも含め、とてもロマンを感じています。

二つ目は、掃き清めるといふことです。一見汚れていないところを、心を込めて、掃除機をかけたり、箒で掃く。そうすると、手入れされている感じがお客様に伝わると思ふのです。

白壁の町並みでお勤めをする機会をいただき、人生を楽しめるツールが増え、感謝の日々となっております。「来てよかった」と観光客の方に思っていただけよう精進してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

【編集後記】

★記念すべき町並みかわら版100号をお届けします。今年は柳井市古市金屋地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されて40周年を迎える記念すべき年でもあります。

★八朔の船流しの由来を書いていて何故源平の合戦のおり平家の軍船が当地に立ち寄ったのか疑問に思っていたところ市の広報紙の人気郷土史コラムの中に答はあった。筆者松島幸夫さんによると柳井の中心地は古くは楊井庄と呼ばれ、俗に三十三間堂と称される京都の蓮華王院の荘園であった。蓮華王院は後白河法皇が平清盛に命じて造らせ、楊井庄は清盛が手に入っていた土地を蓮華王院に寄進した土地だったとのこと。なるほど。もともと平家にとって柳井は自分たちの庭だった訳なのだ。

(事務局 皿田)

令和6年度第2四半期
柳井市町並み資料館入館者数

| | 令和6年/7月~9月 | 令和6年9月現在累計 |
|---------|------------|------------|
| 町並み資料館 | 5,223 | 334,568 |
| | 前年同期比 95% | |
| 松島詩子記念館 | 1,041 | 117,019 |
| | 前年同期比 109% | |